

令和元年度決算の監査について



深田 真史 議員
(自由民主党・無所属の会)

問 加西病院の経営状況が悪化しているのは、紛れもない事実。監査の立場として、その決定的な要因は何だと考えているのか。

答 代表監査委員は所用のため欠席していますが、事務局より代表の考えを答弁します。

加西病院の令和元年度決算における財政状態や経営成績は、前年度以上に厳しい状態にあります。加西病院の経営は、一般企業であれば倒産の危機、実質的に破綻の状況にあることは、私どもの見解を待たずとも、周知のことと存じ

ます。破綻の危機を回避するためには、病院並びに市当局、そして議会が一丸となって、抜本的な改善策を策定し、実行されなければなりません。いまだそのような対応が図られていない状態であると思います。

例月出納検査等では、各種経費の低減について、諸策を検討・実施の上、ある程度の結果を得ることができているとの説明を病院から受けていますが、根本的な病院経営の改善につながるようなものとは言い難いです。

あえて申し上げれば、収益構造の根本的な改善、いわゆる患者へのサービス内容の見直し、並びに人件費の削減に通じる組織的な再編等が考えられると思います。また、院長をはじめ、医師や他の職員、市の担当部署等の意識統一を図り、病院経営の方向性を共有すべきであり、このような観点からの検討・見直しも必要ではないか

と考えています。

一般会計からの負担金は、病院の運営上、必然的に投入せざるを得ない資金となっていますが、これを病院経営に対し、所与のあらかじめ決められた補助金・助成金であるとの認識は適当ではありません。極力必要にして最低限のものに限定する体制をとるべきではないかと考えています。このような体制をとることで、病院経営のより厳格な管理につながるものと思います。

■その他の質問項目

- ・ 加西市の教育について
- ・ 播磨国風土記事業について
- ・ 市道鶏野飛行場線の整備について
- ・ 西脇・多可の新ごみ焼却施設について
- ・ 加古川西部土地改良区の理事選について

市街中心地の花と美化について



佐伯 欣子 議員
(21政会・加西ともニ育つ会)

問 市街中心地の花と美化の現状について。

答 県のひょうごアドプト事業制度を活用し、北条市街地のメイン道路である三木宍粟線の北条交番前交差点から、笠屋交差点までの間にプランター 35 基を設置しています。花苗の植栽、育苗を行っていただける市民の皆様にお越し、年間春と夏 2 回に分けて約 800 ポットの花を育てています。また、北条町駅周辺では、アスティアかさい前の駅前ロータ

リーで、地域の団体の皆様が花苗の植栽、育成を行っておられます。

問 加西市内の花苗植栽ボランティアの活動について。

答 市域全体の取り組みとして、市民有志のボランティア団体である、加西市花と緑の協会があります。協会では 98 名の花づくりボランティアの方と老人クラブ連合会等が共同で、フラワーセンターや播磨農業高校のビニールハウスで毎年 11 万株の花苗を育苗し、こども園や小中学校、公民館等の公共施設、地域の花壇 60 カ所、また、町の老人クラブ管理の花壇 125 カ所に花苗を植栽、管理しながら、地域の美化運動を積極的に推進していただいています。今後とも、ボランティアの皆様力を借りながら、花いっぱいのもちづくりに努めていきたいと

考えます。

問 沿道の花の整備と今後の計画について。

答 緑化に関しては、年 1 回の剪定等で美しく管理できますが、花の整備は、毎日の水やり等、市直営での管理は困難であり、地域のボランティアの皆様のお力をお借りしているという現状です。今後、このような活動を PR しつつ、一人でも多くの方に参加していただけるような活動の場を広げていきたいと考えています。

要望 地域をよくしたいという地元愛あふれるボランティアの皆様を支えられているので、今後とも行政とともに持続できる取り組みをお願いしたい。